

笑いを因数分解してみよう

国語班：磨田花朗 久保智輝 深津児太朗 笠井航貴

1. はじめに

普段私たちの生活のなかで必ず訪れる『笑い』。しかし、自分がどうして笑っているのか、どうして面白いと思うのか、これを考えたことはあるだろうか。現代では『笑い』の複雑化も進んでいる。私たちは笑いという概念についてそろそろ決着をつけたいと考えた。今回の研究ではこの複雑に入り組んだ現代の笑いの解決のため、まず、古典の『笑いの理由』について追及し、原因究明を試みた。

2. 調査方法

古くから親しまれてきた笑いの伝統芸能「落語」に注目し、そこから人が笑う場面をピックアップしていき、笑いの要素を考察した。さらに笑いを細分化し、細かく分けられた笑いの要素から人間が笑う理由を求めた。図書室の資料、ネットなどから100の落語を研究対象とした。

3. 結果

- ・分解して発見した落語の笑いの起きるシーン

シャレ	例 大工調べ 錦の袈裟
	・期待していたのに残念 ・あほらしい
マヌケ	例 時そば らくだ
	・他人の失敗は面白い ・自分の考え方とのギャップ
かしこさ	例 時そば 饅頭怖い
	・クールでかっこいい ・貪欲さ、罔々しさから感じられる人間味

4. 考察

そして、結果のシーンを我々が独自に式に表した。

$$(ia+ib+ic) = i(a+b+c) \quad i = \text{意外性}$$

(a, b, c はそれぞれシャレ、マヌケ、かしこさとする。)

要するに、笑いのシーンには必ず意外性がある、ということが考察された。

・意外性

意外性とは予想外の出来事が起きる、思いがけない展開のことである。
人間はこの、意外性によって笑いを起こすのではないかと考察された。

そして、そこからこの式から導かれた。

すると、 笑い= i (意外性)

ではないかということが考えられ、研究はここでおわりを迎えたと思われた。
しかし、ここで新たな説が浮上した。

「単なる意外性（以下 i と呼ぶ）だけでは笑いは成り立たないのでは？」
つまり、 i は何かの要素を追加することで笑いにつながるのではないか。
この考察からわれわれは真の笑いに要素を求めることに成功した。
それが、「緊張と緩和」である。

・緊張と緩和

ある緊張状態の中、何らかの刺激によって「緊張の糸」が切れ、そこに笑いが起こる。という考察だ。

人間は緊張状態から意外性という刺激によって、笑うのである。

これを式にすると、 i^x = 笑い (x = 緊張感) となる。

つまり、緊張感を作り出せば作り出すほど、意外性による笑いの大きさは大きくなっていくのである。

4. 考察

緊張状態が意外性によって緩和されたとき、人間は笑いを引き起こされる。
そして今後、現代の「笑い」に研究対象を広げていきたい。

5. 参考文献

石井 明 「落語を楽しもう」 岩波ジュニア新書
江国 滋 「古典落語大系」 三一書房